

2021年7月11日 聖餐式説教

本日は日本聖公会の定める「海の主日」です。私たちが住む埼玉県は海のない県ですので、直接にはかかわりを持つことが難しいかもしれませんが、聖公会の大切な働きである海で働く人々のために今日は代祷と信施をささげることになっています。

船で働く人々、船員は、家族と長期間離れて限られた人数で仕事に就かねばなりません。また嵐など、大変な危険を伴う仕事です。昨今は船も大型化していますが、一方で電子化により乗組員は減少しています。船員たちは大きな船を、限られた人数で対応することが求められており、その働きは一層過酷になっています。

また積み荷の積み下ろしのため、船が港に停泊することになりますが、この時が船員が仕事を離れてゆっくりできる時になります。港には宿泊施設が設けられ、家族と共に過ごす時間を持ったり、停泊が少しまとまった期間になるとときには旅行などもできるように設備が整えられています。しかし港に低俳句している間、船の所有会社は停泊料を支払わねばなりませんので、停泊期間を短縮化しようとしします。船員たちにとっては仕事を離れてリフレッシュできる期間が短くなるわけで、こうした面でも船員の仕事は過酷になっているわけです。輸送コストの問題は無視できないとしても、外国との競争もあり、彼らを取り巻く環境は厳しさを増しています。

ミッション・トゥ・シーフェアラーズの働きは、全世界に約90の拠点が置かれ、船で働く人々のため、教会の働きを続けています。日本では、北海道の苫小牧、横浜、神戸に拠点が置かれ、近隣の教会の教役者がミッション・トゥ・シーフェアラーズのチャプレンとして働きを続けています。

飛行機輸送が主力になったとはいえ、原油など船でしか輸送できないものが数多くあり、これからも船員たちは、私たちの日々の生活を支える重要な存在として働いてくださるわけです。本日はその方々のため、またミッション・トゥ・シーフェアラーズの働きのため、代祷と信施をささげます。私たちの生活がどのように支えられているのかは、なかなか実感しにくいかもしれませんが、今日はそのことも覚えて、礼拝を共にいたしましょう。